

ジャリッコでの固形有機物分解

・嫌気好気の場を作り、すべての有機物をガスと水にする

特 徴

- ・汚泥、油分はジャリッコ内ですべて分解
- ・建設費は活性汚泥法の70%程度
- ・維持管理費は活性汚泥法の10%程度

概 要 (技術原理、動作等)

ジャリッコは2~3cmの碎石を樹脂でφ10cmの球体にしたもの、これを充填し、底部より曝気して、好気・嫌気の間を多数作っている。
 溶解性有機物(BOD)は嫌気好気の間でガスと水となり、嫌気の菌は好気の間で、好気の間は嫌気の間で死滅する。残った菌はジャリッコに流離で捕捉され、水中よりなくなる。固形有機物(SS)は流離でジャリッコ内に取り込まれ、可溶化され、溶解性有機物となる。
 ジャリッコの実績としては河川浄化として26箇所あり、1号機は17年無人で初期の機能を保持している。最大は26万m³/日のものもある。
 工場排水としては9箇所の実績があり、大きいのは5万m³/日の化学工場からBOD2700、SS1000の高濃度の排水をBOD・SSともに20mg/Lにすることも出来ている。当然ながら汚泥の引き抜きや処理は行わない。

2~3cmの碎石を樹脂で溶着した直径10cmの球体を「ジャリッコ」と呼ぶ。



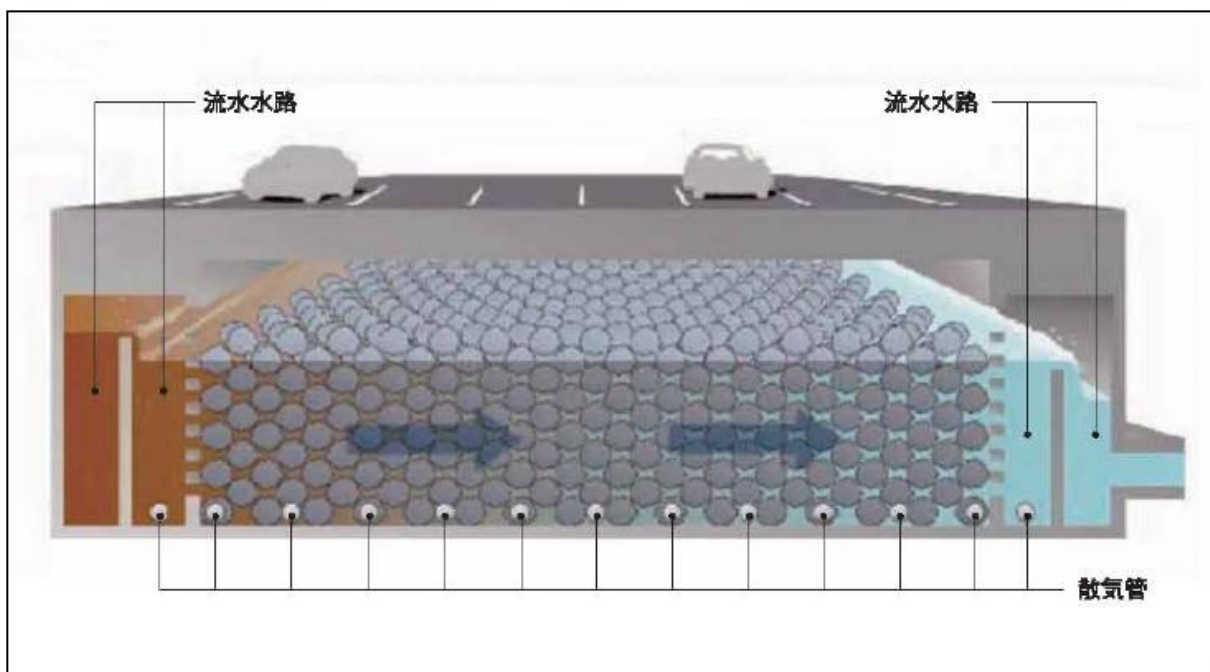
ジャリッコの仕様

大きさ:10cm
 空隙率:60%以上
 圧縮強度:200kg/f以上

ジャリッコの充填

1m³あたり約1400個(=約1t)のジャリッコを充填する。(通水:横流)

ジャリッコとは



施設概要

導入実績

現在、河川浄化として韓国、フィリピン、中国(杭州)でジャリッコ浄化が検討されている。

効果

ジャリッコ処理の効果を見ると以下となる

- ①河川浄化:原水がBOD20～50mg/Lのとき浄化水は3～5mg/Lを得ることが出来る。
- ②工場排水処理:食品工場の排水についてはすべてに適応でき、ノーマンテであることから、経済的であり、処理水質も河川放流対応が出来る。
食品工場の新設に適するとともに、既設の活性汚泥法の曝気槽をジャリッコ槽に改造することも出来る。
- ③下水:5年間の実験によって、下水処理に大変有益であることを知った。現在検討中である。

株式会社マサキ設備

<http://www.masakis.co.jp>
E-mail setsubi@masakis.co.jp
所在地: 〒536-0002
大阪市城東区今福東2-4-30
TEL 06-6933-2090 FAX 06-6932-1415